



何ごと3度で

道内大部分の郡歯会が終戦後の昭和23年、民主的に新制の社団法人郡歯会として早くも50年を数える。美唄歯科医師会もその例にもれないが、道内最小の規模の小歯会のため、この節目を記念すべき式典の開催も思うにかなわず、この度、『五十年の歩み』と題し、会史の発刊をすることができました。日本史に例えれば、高天原時代ともいえる。大正初期から昭和22年を加えれば、会をはじめて80年にして、初めての快

挙といえる。顧みれば、昭和10年に15年会史を、同37年に40年史をとの2度におよぶ会史編纂の気運の盛り上がりを見ながら、遂に成し得なかった挫折の苦い経験を良き薬とし、反面教師として昨年以來、宝崎新会長のもと、編纂委員会いちがんが一丸となって前車の轍を踏むことのないことを誓い合って、苦勞の甲斐があつての喜びである。

おこがましい限りの内容との、そしりなきにしも、かもと思わないわけがないこともないけれど、一寸の虫にも五分の魂、山椒は小粒でものたとえ、美唄歯科医師会の会をはじめて80年の歩み。道内各郡歯会事務所に寄贈の運びとなりましたので、是非ご一読の程、伏して願う次第であります。

(雨田 実記)